

## 令和4年度 北区立梅木小学校 自己評価報告書

北区立梅木小学校 校長 大木 秀政

## 自己評価の結果と分析並びに改善の方策

本校では、前年度との比較で、課題の把握及び次年度の改善すべき事項を数値化し明確にした。自己評価項目に対して以下のような4段階で評価を行っている。

- A (4点)概ね達成できている
- B (3点)具体的な活動がなされており、成果も現れている
- C (2点)具体的な活動がなされているが成果が現れていない
- D (1点)具体的な活動がなされておらず成果も現れていない

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めた。その中でも教育活動はほぼ計画通り実施できた。次年度に向け、教育活動の本義に基づきながら行事等の精選や検討し、教職員間の共通理解を図りながら連携を深め、保護者や地域からの信頼に応えていく。以下に評価結果・分析と改善の方策を示し取り組んでいく。

節	項目	評価の視点	R3	R4	評価結果・分析	改善の方策
教育課程の編成	教育目標	学校・月目標の意識化	3.3	3.4	学校だよりで教育目標を児童の姿で発信した。保護者会、朝礼講話、学校HP等を充実させ、教育目標や月ごとの生活目標を意識させる働きかけを行った。	褒める言葉を通して、児童のよさを伸ばし、強めていく。
	教育計画	生活時程・時間割配当	3.7	3.4	感染症対策を行いながら、できるだけ日常を取り戻す教育活動を行った。	オンラインによる欠席児童への対応も柔軟に行っていく。
	経営方針	健全な教育環境 職務の合理化	2.7	2.8	校務分掌を年度途中でも見直し、実際の業務に即して改変した。前例にとられることなく改善をしていく。	チームで仕事ができるように構成し、業務が引き継げるシステムを構築する。
教育課題対応	人権教育	人権尊重教育年間計画、適切な指導	3.3	3.4	年間指導計画により人権指導日の月目標を確認して進めた。教員の研修も行った。	人権感覚は、「まず大人から」を意識し、児童へ指導をしていく。
	特別支援教育	校内委員会や巡回指導、SCとの連携	3.4	3.3	校内支援委員会において配慮が必要な児童の日常的なケアを話し合った。	区・都SCの見立てをより前面に出し、適切な支援を具体的に講じる。
各教科	授業改善	授業改善プランを生かした指導法改善	3.1	3.2	校内研究等を通して、児童の実態に応じた授業改善への取り組みができた。	教科指導だけでなく、教科等横断的な視点で授業づくりを行う。
	学び合う学習	学び合いを生かした主体的な学習の展開	3.2	3.3	きたコンを有効に活用し、児童同士が伝え合い、学び合う学習の充実を図った。	協働的な学びの実現に向け、考えの交流場面を意識した学習を行う。
道徳	計画と準備	副読本・教材、魅力的な資料の活用	3.3	3.4	道徳主任によるOJTにより、授業で使えるアイテムや振り返りシートの活用などを学び合った。	資料等の共有化を図ったり、授業を見合ったりする。
特別活動	委員会活動等	クラブ、委員会活動への主体的な参加	3.1	3.5	異学年による交流活動をほぼ計画通り実施できた。	縮小していた活動を元に戻しつつ、活動内容や方法を精選する。
	学校行事	学校行事の計画・運営	3.4	3.4	制約の多い中、運動会や学芸会を実施し、保護者からの理解も得ることができた。	児童の学びを大切にしたい行事のあり方を今後も計画していく。
総合	総合的な学習	授業の振り返り「自己の生き方」	3.2	3.2	自ら課題を立て、課題解決に向かった探究的に学んでいく学習活動の充実を図った。	体験的な活動を軸とした、課題を探究する学びを繰り返し行っていく。
特色教育	特色ある教育活動	オリ・パラ教育の適切な実施	3.3	2.9	予算の関係もあり、昨年度までと比べて機会は減ったが、オリ・パラの元アスリートを招いた。また、レガシーアワード校として地域清掃などを行った。	学校レガシーを継続しつつ、ボランティアマインドや伝統文化についての学習をより充実させていく。

節	項目	評価の視点	R3	R4	評価結果・分析	改善の方策
生活指導	生活指導	配慮を要する児童についての情報共有	3.4	3.1	毎週の生活指導夕会で、配慮を要する児童の現状を伝え合い、共通認識のもとに具体的な対応や今後の働きかけ等について考えた。	年度当初から校内共通で生活規律の定着を目指す。状況に応じ、臨時の校内委員会を開催する。
生活指導	安全指導	避難訓練・セーフティ教室	3.7	3.6	避難訓練やセーフティ教室を計画的に実施できた。取組の流れに無理や矛盾点がないか再検討し、実際に即した訓練が行えた。	今後も実際に即した訓練ができるように検討を重ねていく。
研修	研修	校内研修の内容	3.1	3.2	服務事故防止やICT活用、生活指導等の研修を適宜実施した。OJTについては、月1回の教員ミニ研修会の開催を行った。	主幹教諭を責任者とした校内OJTがより充実するよう、計画的に研修を進めていく。
施設設備	施設	体育館や校庭、プールの管理・修繕	3.3	3.4	教育活動中の正門と東門の施錠を徹底し、学校公開時には保護者にもその都度、門を閉めていただくよう呼びかけた。	月の安全点検を確実にを行い、不具合等があった場合は後回しにせず、すぐに対応する。
組織運営	組織	企画会・職員会議の内容・運営	3.4	3.3	実際の職務と校務分掌にズレがあったため、年度途中で組織改編を行った。	形式的な考えを払拭し、実務に即した組織の構成と分掌を行っていく。
学校・家庭・地域との連携	家庭	土曜公開日授業参観学校公開日の設定運営	3.4	3.6	年間計画通りにはほぼ授業参観が実施できた。感染状況により制限もあったが、できるだけ公開できた。	引き続き、学校行事や土曜授業公開により、児童の学校での様子を参観いただき、家庭の理解を得ていく。
		保護者会・懇談会個人面談の設定運営	3.6	3.6	授業参観ありの保護者会を実施した。個人面談も年間の計画通りに実施した。また、必要に応じて臨時の保護者会も行った。	できるだけ対面による説明を行い、分かりやすく、確かな情報を伝えていく。
	情報公開	HPの内容更新状況	3.2	3.1	情報教育担当が中心となり、学校・学年だより、行事の様子、学習の様子をアップした。こまめに更新することが課題である。	定期的に更新し、最新の情報や教育活動の様子を発信していく。
		通知表の様式、内容の分かりやすさ	3.4	3.2	9月に通知表の評価について保護者会でお伝えした。また、前期の通知表は回収せず、家庭保管にした。	保護者会での説明を確実にを行い、学習評価がより伝わりやすくなるようにする。